〔書言字考節用集 八言辭〕囅(ワラフ)韻瑞、火笑貌、　哂(同)微笑也、　啾(同)韻會、笑也、　咲(同)　咥(同)　笑(同)　听(同)然文選

〔名物六帖 人事四性行笑啼〕掩口(ワラフ)老學庵筆記、同坐者無不掩口、　盧胡(ワラフ)字典、盧胡笑也、一作胡盧、後漢應劭傳、掩口盧胡而笑、孔叢子抗志篇、衞君胡盧大笑、　胡盧(ワラフ)見上

〔干祿字書 去聲〕咲笑上通下正

〔釋名 三釋姿容〕笑鈔也、頰皮上鈔者也、

〔倭訓栞 前編四十二和〕わらふ　笑をよみ、又哂をよむ、新撰字鏡に、嗤も嗎もよめり、眞名伊勢物語に、笑ひ耻かしむる意を得て、慙字をわらひけるとよめり、笑のくせある事を、說苑に夙笑といへり、嬉笑は魏書崔光傳に見え、竊笑は戰國策に見え、匿笑は程史に見え、傍(ソヒ)笑(モチヒ)は龍城錄に見え、訕笑は唐書に見え、巧(ヨク)笑は張旭が詩に見え、强(シヒ)笑は遼史に見え、啼笑は李賀が詩に見え、忍笑韓偓詩に見え、醉笑は白居易が詩に見え、冷(ニカ)笑北史に見え、乾(ソラ)笑は能改齋漫錄に見えたり、智度論にも笑有種種因緣、有人歡喜而笑、有人瞋恚而笑、有輕之而笑、有見異事而笑、有見可羞耻事而笑、有見殊方異俗而笑、有希有難事而笑と見え、事文類聚に、合坐皆笑謂之洪堂と見えたり、

〔伊呂波字類抄 惠人事〕咲(ヱム亦ヱミ亦乍笑)　咲　咍已上同

〔倭訓栞 前編四十四惠〕ゑまひ　万葉集に多く見ゆ、日本紀に笑字をよめり、まひ反み也、萬葉集に、ゑまはしと見えたるも、はし反ひ同語也、

〔倭訓栞 中編二十九惠〕ゑまほし　欲笑の義也

〔古事記 上〕爾其沼河日賣未開戸、自內歌曰、○中略阿遠夜麻邇(アヲヤマニ)、比賀迦久良婆(ヒガカクラバ)、奴婆多麻能(ヌバタマノ)、用波伊傳那牟(ヨハイデナム)、阿佐比能(アサヒノ)、惠美佐迦延岐氏(ヱミサカエキテ)、○下略

〔古事記傳 十一〕惠美佐加延伎氏は、○註略咲榮來而(ヱミサカエキテ)なり、源氏物語末摘花卷に、老人どもゑみさかえて見奉る、○中略竹取物語には、わらひさかえてともあり、人の喜び咲(ヱム)は、顏の榮ゆるなれば云り、さて祝詞どもに、朝日之豐榮登(アサヒノトヨサカノボリ)とも云て、其さま人の咲榮(ヱミサカエ)たる顏と相似たる故に、朝日之と